

「ブルーハウス検証」

—初稿—

2025/12/6

雨森 れに

人物表

鹿野
かの
優友
ゆうともみ

(22) 配信者

(18) 友未のいとこ。一緒に配信している

1. 山（夜）

山の奥深く。強く風が吹く。

木々の音に混ざる、微かな女の泣き声。

鹿野友未（22）の叫び声。車のドアが閉まる音。

2. 山・小道（夜）

砂利でかろうじて舗装されている小道。

ライトのついた軽自動車が止まっている。

3. 車・車内（夜）

ダッシュボードの上には車載ホルダーがあり、スマホが固定されている。

運転席の友未、ハンドルを殴る。

友未 「だから、嫌だったのに」

「みんな待ってるよ」

助手席に座る鹿野優（18）がスマホを指さす。
「みんな待ってるよ」

友未、額を押さえ、貧乏ゆすりをする。

トが流れている。

優がスマホ画面をのぞき込む。

「はやく戻ってほしいってよ」
「わかってるよ」

友未は貧乏ゆすりを強める。

スマホをちらりと見る。

優 「誰が泣いてるか、みんな知りたいみたい」

友未、スマホに向かって、

「わかった。戻るよ。みんなも離脱しないでよ」

4. 山・小道（夜）

友未が車から出てくる。手にはジンバルと懐中電灯
が握られている。

優、友未の後ろにつく。

友未、スマホ画面を見て、

友未 「背後霊がいますよって、それはユウのことだよね？」

友未が振り向く。

優、スマホに向かつて、

「ユウは背後霊じゃないです。トモちゃんのいとこです」

友未、目を細めてコメントを確認する。

友未 「(新規さんか。私たち日常系配信者でーす。私がADHDで、ユウはASD。こっち側のリアルを見せつけてまーす」

友未、スマホに向かつて優と肩を組む。

茂みがガサリと動く。

友未、後ろに飛びのぐ。

優がそれを支える。

「ちゃんと歩いて」

友未 「だつてなんかいたよね?」

友未がスマホ越しに茂みを覗く。

5.

(配信画面) 山の中(夜)

視聴者数、1K。

茂みの奥には何もない。

懐中電灯の光があちらこちらを照らす。

優の声 「何もないね」

奥に進んでいく。

友未の声 「さっきは物置小屋まで行つたんだつけ」

優の声 「そう。プレハブまで」

懐中電灯が木々を照らす。

枝に薄青いボロ布がかけてある。

友未の声 「これこれ。さっきこれにビックリしてー」

優の声 「もう近いはず」

友未の声 「一反木綿って実はこれじやねー」

友未の腕が布を引っ張る。

突風が吹く。

女のすすり泣く声。

友未の声 「え? やだやだ。また聞こえる」

地面が映され、走っているのがわかる。
がくんと衝撃がし、友未と優の靴が映る。

優の声 「みんな知りたがってるんだよ」

6. 山の中（夜）

友未

「でもっ」

優が静かに、と合図する。

強い風が吹き、すすり泣きがする。

友未、また逃げようとするが、優が許さない。

友未と優、見つめ合う。

弱い風が吹く。女のすすり泣きは聞こえない。

また強い風が吹く。すすり泣きがする。

友未、目を大きく開く。

優、頷く。

「風だね」

友未、ジンバルを持ち上げる。

友未

「みんな、現場検証しよう」

7.

（配信画面）山の中（夜）

視聴者数、2K。

山道を歩く音。

懐中電灯がプレハブ小屋を捕え、近づいていく。

8.

（配信画面）山の中・ブルーハウス・外（夜）

小屋は五畳ほどの広さがあり、物置にしては大きい。

窓があり、古びた青いカーテンも確認できる。

友未の声 「ここがブルーハウス。みんなにリクエストもらつた心

靈ススポットだよ」

視聴者数が増えていく。

友未の手が扉を開ける。

9.

（配信画面）山の中・ブルーハウス・室内（夜）

小屋の中はぬいぐるみで埋め尽くされている。

どのぬいぐるみも青系統のもので、目をえぐり取られている。

優

「ひどい。かわいそうだよ」

優がぬいぐるみのひとつを抱える。

友未の声 「それ持つて帰らないでよ」

優、ぬいぐるみの山に差し込まれている地図に気づく。

友未の懐中電灯が小屋の中を照らしていく。

友未の声 「(ここ)で暮らしてた女が自殺して、それから泣き声がするってことだつたけどさ」

剥げかけたペンキの壁。毛布やクツション。少しの食器。それらすべてが青色である。

窓がカタカタと鳴り、微妙にすすり泣きが聞こえる。

友未の声 「ね。聞こえてる——」

優、ゆっくりと外へ。

友未の声 「待つてよ」

10. 山の中・ブルーハウス・外（夜）

優、懐中電灯で地図を照らしている。

友未 「そんなんどこにあったの？」

優 「今、そこで」

強風、そしてすすり泣き。

友未、優の上着を掴む。

しかし、ジンバルはしっかりと構え、周囲の様子を撮っている。

「風がこっちから吹いてて……」

優 優、顔をあげる。

「わかつた」

「どうして泣き声がするか、わかつたってこと?」

優 「たぶん」

優が歩き出す。

友未、あとに続く。

11. (配信画面) 山の中（夜）

視聴者数、10K。

優の背中を追いかけて、進んでいく。

優の懐中電灯が岩肌を捕える。
進む速度が上がる。

12.

(配信画面) 山の中・洞窟(夜)

人ひとり何とか通れそうな大きさの洞窟。
優を引き止め、友未が先に入る。
足元はぬかるんでいる。

友未の声 「ちよつ。水が！」

懐中電灯で上を照らす。鍾乳石から水が滴っている。
風で雪が揺れる。

すると、最奥の暗闇からすすり泣きのような音。

懐中電灯が奥を照らす。

沢山の鍾乳石がある。

優の声 「条件が合うと泣き声みたいになるんだと思う」

振り返り、優を照らす。

優、地図を広げている。

地図は手書きで、ブルーハウスを中心にバツが散らばっている。バツの下には小さい文字が書いてある
が、読めない。

「何か隠したのか、見つけたのか。僕にはわからない。でもここが洞窟なのは解読できた」

友未の声 「その、小さい文字？」

優 「そう」

優、地図をしまう。

友未の声 「ちよつと。みんなに見てもらわないと」
「誰の泣き声かわかったでしょ。必要ないよ」

優、洞窟の外へ。

視聴者数、20K。

13.

車・車内(夜)

友未、配信の終わつたスマホをホルダーにはめる。
満足げな笑みを浮かべている。

友未 「心スボ凸、はまりそう。登録者数爆増中」
優 「でもトモちゃん怖がるから。めんどくさい」

友未

「ばか。こういうのは怖がったほうがいいんだって」

車が発進する。

14.

山の中（早朝）

枝にかかった薄青いボロ布が揺れている。

布は上のほうから垂れている。

朝陽が山を照らす。

首を吊った骸骨から、布が垂れている。布はワンピースが朽ちたものである。

骸骨が揺れ、女のすすり泣きが響く。

おわり